

令和元年度 第2回まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

○ 日 時

令和元年 12月6日（金）午後2時～3時40分

○ 会 場

諏訪市役所 2階 201会議室

○ 出席者

＜まち・ひと・しごと創生有識者会議委員＞

中嶋博美委員、岩波寿亮委員、白木智康委員、茅野昭一委員、小野沢弘夫委員、
櫻井哲朗委員、宮坂哲也委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、有賀仙太郎委員、
金子ゆかり委員（まち・ひと・しごと創生本部本部長）

＜まち・ひと・しごと創生本部副本部長＞

渡辺副市長、小島教育長

＜まち・ひと・しごと創生本部本部員＞

木島企画部長、花岡市民部長、大館経済部長、小松建設部長、河西水道局長、
後藤教育次長、前澤議会事務局長

＜まち・ひと・しごと創生本部幹事＞

寺島企画政策課長

＜事務局＞

中澤企画政策係長、茅野企画政策係主任

○ 欠席者

＜まち・ひと・しごと創生有識者会議委員＞

宮坂友子委員、牛山久仁彦委員、前田剛彦委員、山内章弘委員

○ 会議概要

1 開会

（木島企画部長）

- ・令和元年度の第2回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催する。
- ・会長である、金子市長からご挨拶申し上げる。

2 市長挨拶

（金子市長）

- ・みなさんこんにちは。師走に入り残すところ今年も1ヶ月弱ですが、皆様大変お忙しいところ、令和元年度第2回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。
- ・平成27年12月に、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定して、今年で5年目と

なる。効果的な事業実施のために、PDCA サイクルを確立して、重要業績評価指標 K P I を設定しているが、達成状況を目に見える形で示し、外部有識者の皆様からご意見をいただき、戦略や事業の効果検証、政策の見直し、総合戦略の改訂を実施してきた。

- ・当初計画の最終年度を本年迎えたが、諏訪市では令和 4 年度を初年度とする第六次諏訪市総合計画に総合戦略を統合するまで 2 年間は、時点修正で現戦略を延長する。今回は効果検証結果、時点修正（案）、改訂（案）について議題となっているが、それぞれの視点から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

(木島企画部長)

- ・以降の進行は会長である金子市長にお願いする。

3 議事

(会長)

- ・報告事項に先立ち、定足数の確認について事務局よりお願いしたい。

(事務局)

- ・有識者会議の委員数 15 名のうち、本日出席の委員は 11 名となり、半数以上の出席であることから定足数に達していることを報告する。

(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証・時点修正・改訂について

(会長)

- ・協議事項に移りたい。協議事項「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証・時点修正・改訂について」だが、まず「①効果検証について」「②時点修正について」を事務局に説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.1、資料No.2 に基づき説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。
(質問、意見無し)

(会長)

- ・次に「③総合戦略効果検証結果（案）」、一之柱について務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.3 に基づき一之柱について説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。
(質問、意見無し)

(会長)

- ・次に二之柱について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.3に基づき二之柱について説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(A委員)

- ・全体的な話になるが、PDCAサイクルをしっかりと回していくことが重要。そうした中で、現状分析をやっていく必要がある。生産年齢人口の話もあったが、それぞれ年代別、各年齢の区分ごとに、社会増減の動きを見てみると、見えてくるものもあるのではないかと。経年変化の動きを見ていくと、特定年代の下げ幅が大きいというような傾向が見えてきて、取り組むべきことの優先度が見えてくると思う。そういう分析をすることで、PDCAサイクルの効果が出てくると思う。社会増減について、累積で出ているが、各年度にどのくらい減ったのかというのを明らかにしておくといよい。

(事務局)

- ・年代別の統計に関しては、30代前後の結婚し子供が生まれたであろう年代と、その子供である年代が多く転出している傾向にあることから、若い方に対する支援、諏訪市にとどまってもらえる取組に力を入れる必要があるかと思われる。
- ・経年変化については、参考にさせていただく。

(会長)

- ・次に三之柱について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.3に基づき三之柱について説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(B委員)

- ・学校教育に対する市民満足度があるが、学校に通っていない市民が答えているのではないかと。学校に通っていない人が答えた意見が含まれているのはどうなのか。それよりも、ものづくり教育に関してのアンケートのように、当事者からの意見がよいと思う。
- ・不登校に関しては、このまま掲載するのか。

(事務局)

- ・市民満足度調査に関しては、保護者や地域の方が答えているという形になっている。不登校を代表とするKPIの項目やその設定方法に関しては、2年後大幅な変更時には今のKPIや決め方がいいのかということも議論し、より効果的なPDCAサイクルを回せるような数値を設定しなくてはいけないと考えている。

(B委員)

- ・魅力的な街にするためにこの総合戦略があると思うが、KPIを掲載しておくことで魅力が感じられなくなってしまう可能性もあると思う。指標を立てておくことがどうなのかと思ってしまう。

(会長)

- ・数値ではないものの、具体的な提案があればぜひ伺いたい。

(C委員)

- ・不登校の割合を KPI に使うこと自体が時代に合わないのではないかと。不登校の児童生徒は理由があってそういう状況になっている。相談件数や、サードプレイスとなる場所の利用数などを活用する案もあるかと思う。
- ・ものづくりに関しては、私の子も地域の方に学校に来てもらい体験をした。子供たちは地域の方から教えてもらい、チャレンジショップで販売、収益を修学旅行の土産代としていた。ビジネスの一連の流れを経験できるということから、良い学びとなっている。

(会長)

- ・不登校の件については本部会議でも議論となった。時点修正についての議論で意見をいただきたい。

(会長)

- ・次に四之柱について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.3 に基づき四之柱について説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(D委員)

- ・この戦略の中で大きく注目はされていないが、全国の地方都市で大廃業時代が来ると言われている。この諏訪地方においても、後継者がいない中小企業は多い。実際に後継者がいない会社や商店の廃業の嵐が来ると思う。あの企業は後継者がいないがどうするのかという話も出ている。

(事務局)

- ・人口減少社会において、後継者不足や事業承継についての悩みも持つ企業があることは把握している。経済だけではなく、子育てや移住という様々な視点からまち・ひと・しごと創生総合戦略に関わることに力を入れ、民間とも協同で経済対策、人口減少対策に取り組んでいく必要があると思う。

(会長)

- ・人口減少時代ではあるが、その減少幅を減らす、どのように抑えていくのかということ的前提にしているのがこの総合戦略である。人口減少は確実に進むので、急に増加に持っていくことは難しい。そんな中でも、市民生活を充実させていくことが必要だと思う。

(B委員)

- ・人口減少がこのまま進んだときに発生する課題を解決するためにこの戦略があるのではと思う。継承者がいないこと以外にも課題はある。これだけ素早く時代が動く中では、KPI の変更もすぐに柔軟にやっていかなくてはいけないのではないかと。

(会長)

- ・そのために有識者会議で評価、見直しをしている。具体的な提案があればいただきたい。

(E 委員)

- ・確かに後継者がいないということをよく耳にする。そんな中で働き方改革ということも聞くが、度が過ぎると経営者自体が疲弊してしまうのではないか。度が過ぎたことが多くなると、企業を経営するためには不安が出てくる。地域の中での企業の存在意義を確立していかななくてはいけない。
- ・防災について、先日の台風で上川も氾濫する寸前だった。何とか氾濫せずにおさまったのだが、その陰で行政はどんな努力や準備をしていたのか、まだまだ市民に伝わっていない。防災意識向上のためには、裏方の職員がどんなことをしているのかということも知ってもらう必要があると思う。
- ・すわっこランドについて、施設の使い勝手を議論していかないと利用者は増えていかないと思う。様々な意見はあると思うが、数値で示せるものは数値で示さなくてはいけない。

(会長)

- ・今後の取組につなげていきたい。

(F 委員)

- ・人口減少社会においてどのように社会を回していくのかということかと思う。市を魅力的にして、暮らしやすい、働きやすい、住みやすいものにしないといけない。
- ・KPI の進捗状況を見ると、減少していても概ね順調となっている。人口減少は皆が思っている以上に進んでいる。人を採用しようとハローワークに出すと、5年前なら1日に何人も来たが、今は出しても1か月くらい何もない。
- ・親の会社を相続することが多いと思うが、親が楽しそうに仕事をしていなければ継ぐことはないと思う。親も苦勞をしてくると、子に継がせることはしないと思う。後継者問題といっても、実際は廃業が多いと思う。
- ・数値目標ももっとシビアに考えてやっていった方がいいと思う。

(会長)

- ・人口の推移は予測も実態も右肩下がりではある。マイナスではあるが、その幅を抑えていくということが目標となっている。

(会長)

- ・次に「④総合戦略時点修正（案）」について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.4 に基づき説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(G 委員)

- ・四之柱で説明があった、すわっチャオについてだが、利用者数はどのように出しているのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・入口に設置された人感センサーでカウントしている。出入口となる場所はその数を二分の一にし、上りエスカレータ部分についてはその数をカウントしている。

(G 委員)

- ・利用者を見ると学生が大多数だと思う。可能であれば施設の利用状況、例えば会議に使った実績という KPI を設置するのも検討できるのではないかな。

(事務局)

- ・より効果的な施策となるよう検討したい。

(E 委員)

- ・すわまちクラブの来館者数について、補助金を見直し独立も含めた方向性を検討するとある一方、令和 3 年の目標値が 3,600 人となっている。どういうことなのか。

(本部長)

- ・まちづくりを行っている団体の集まりがすわまちクラブである。拠点が駅前にあるのだが、その場所も含めて検討段階にある。目標値は出しているが、検討結果によって変更になる可能性もある。

(C 委員)

- ・移住セミナー等での相談者数が 30 年実績 172 人に対し目標数値は 100 人、同じく諏訪圏移住相談センターへの相談件数は 30 年実績 310 件に対し目標数値は 150 件となっている。移住の分野では諏訪市は力を入れていると感じているので、目標数値をもっと高くしてもよいと思う。

(事務局)

- ・担当課と調整させていただく。

(H 委員)

- ・市内事業所従業者数について維持するとなっているが、生産年齢人口が減少している中では、同じ数値でも目標としては上がっていく。人口の割合に対する判断もしていけないと達成が難しくなると思う。

(事務局)

- ・経済センサスというものから実績値を取っているが、現状数値が公表前であるため判断ができない。よって、時点修正による延長については現状維持とさせていただいている。また、人口についても人口ビジョンを基にしているが、国も長期ビジョンを見直さないということなので、諏訪市でも今回は人口ビジョンの見直しはしないこととしている。

(会長)

- ・次に「⑤改訂箇所一覧」について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.5 に基づき説明

(会長)

- ・質問、意見があれば伺いたい。

(A 委員)

- ・新たな観点として SDGs についての話があった。国の次期総合戦略では、関係人口の創出と拡大が大きな柱となりそうだ。関係人口の定義は幅広く難しいが、観光客、テレワーカー、ふるさと納税をされる方も入る可能性がある。関係人口について意識をしていった方

がよいと思う。

(会長)

- ・今後の大きな見直しを含め、対応に含めていきたい。

(I 委員)

- ・統計学を専門としているが、数値目標が多過ぎると感じた。複雑な事象をとらえるためにあるのだろうが、それだけ難しいと感じたところだ。

(J 委員)

- ・今回の台風災害で堤防が決壊した長野市のような状況になると、計画があっても成り立たなくなるので、防災面では県や国とも連携した取組をしてほしい。

(会長)

- ・意見等については、各担当課にフィードバックさせていただき、必要に応じて再検討しますが、それを踏まえて「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証・時点修正・改訂について」、有識者会議として承認いただきたいがよろしいか。

(異議なし)

- ・ありがとうございます。
- ・慎重なご審議、ご協力をありがとうございました。

4 その他

(木島企画部長)

- ・長時間にわたり熱心なご審議をありがとうございました。
- ・その他連絡事項について、事務局より報告したい。

(茅野企画政策係主任)

※第3回有識者会議日程等について事務連絡

5 閉会

(渡辺副市長)

- ・本日は熱心な議論、貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。
- ・意見を踏まえ、戦略の実現に取り組んでいく。また、事業承継、災害対応等話も頂戴したが、それも地方創生に重要な要素となっている。
- ・来年度の予算編成にも取り組んでいるが、具体的な事業について意見を反映していきたい。
- ・どうしても市だけではできないものもある。国や県はもちろんだが、民間団体の皆さまとも連携していく必要がある。
- ・地方創生という言葉は浸透しているが、東京一極集中は止まっていない。スピード感を持ち効果的な施策を実施していく。
- ・今後もあらゆる機会でご意見ご協力をお願いしたい。

(閉会 午後3時40分)